

「成人の日」記念行事あり方検討委員会 開催規模別比較表【資料2】

検討要素	横浜アリーナ(現行)	区ごとの開催(公会堂・学校等)	中学校区ごとの開催 (中学校体育館等)
想定される実施方法	横浜市及び実行委員会が主催し、横浜アリーナにて2回開催する。	各区役所と横浜市が共催し、区ごとに公会堂等の会場を確保し実施する。	主に連合町内会等が主催し、中学校区ごとに、中学校の体育館等で実施する。
新成人にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体で祝ってもらっているという意識になる。 ・成人の日にアリーナに行くことは、一種のステータス ・規模が大きすぎて会場内で友達に会えない可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・転居した人や私立の学校の友達には会えない可能性がある。 ・高校・大学の友達とは一緒に出られない可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な住民に祝ってもらうことができ、地域の中で成人することが自覚できる。 ・中学校の友達に会うことができる。 ・転入者や私立中学校出身者が参加しそうい。 ・高校・大学の友達とは一緒に出られない可能性がある。
会場	<ul style="list-style-type: none"> ・市内最大の屋内収容施設(14,550人) ・式典等には最適 	<ul style="list-style-type: none"> ・公会堂等では、3~4回の開催が必要な区がある。 ・高校の体育館等を借用できれば、2回開催で実施可能 ・結局、アリーナ・文体等も使用する可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一回場300人程度のため、1回で収容可能 ・145会場にも及ぶ
経費概算	2,500万円	使用する施設によって、経費の増減が生じる。	145会場で開催されるため、大幅増が見込まれる。
運営	<ul style="list-style-type: none"> ・教委が主催 ・全体が把握しやすい ・最小限の人員体制で実施可能 ・運営ノウハウがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区が主催 ・全区の把握困難 ・区の業務量急増 	<ul style="list-style-type: none"> ・全会場の把握困難 ・区又は中学校の業務量急増 ・会場毎の運営組織が必要
警備誘導	<ul style="list-style-type: none"> ・一回場のため一元管理可能 ・退場時の出口の混乱 ・滞留多く警備・誘導員多数必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・1000人レベルでの入退場時の混乱 ・リスクが18会場に拡大する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地外での誘導計画不要 ・リスクが145会場に拡大する。
周辺状況	<ul style="list-style-type: none"> ・駅に近く(4分)便利 ・至近距離に参加者集中 ・環状2号線の交通渋滞等 ・交通規制の必要あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場周辺の混乱 ・路上駐車の可能性大 ・会場によっては駅から遠い ・周辺住宅地への影響大 	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地から徒歩で参加可能 ・周辺住宅地への影響大 ・会場によっては駅から遠い ・滞留スペースは校庭利用化 ・地域住民からの監視効果
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜らしさのアピール ・参加者にとってステータス感あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・区の力、個性の発揮 ・18区の実施体制の確立が困難 ・会場毎のクレーム、トラブル増 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の力による「手作り感」・「連帯感」の醸成 ・行政と地域の役割分担や実施体制の確立が困難 ・会場毎のクレーム、トラブル増 ・トラブル時の責任の所在 ・私立卒業生・転入者等の割振